

会社概要

社名	久保井塗装株式会社【狭山市】		
代表者	窪井 要	業種	工業塗装業
従業員数	16人	URL	https://www.kuboitosou.co.jp/
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・工業塗装 ・塗装工場IoTシステムのクラウド提供 		
沿革	<p>昭和33年 「クボイ塗装店」創業</p> <p>平成16年 窪井要現社長就任</p> <p>平成22年 「経営革新計画」承認(1回目)</p> <p>平成30年 「経営革新計画」承認(2回目)</p> <p>令和元年 IoTシステム「KCW-CMS」の外部向け提供開始</p> <p>令和2年 「経営革新計画」承認(3回目)</p>		 <p>本社外観</p>

「経営革新計画」に取り組んだきっかけ

＜当時の課題＞

○顧客企業の工場がグローバル展開しており、海外の拠点との取引ができなければ事業の発展が見込めない状況であった。

＜解決への道筋＞

○海外工場の塗装ラインの管理における問題点が解決できず、塗装ノウハウの提供を当社に求めてくるケースが増えていた。

○塗装ライン管理システムを開発できれば、国内塗装工場および海外工場の塗装ラインへのコンサルティングに使うことができると思い当たり、設計したところ、現実的な金額で開発可能であることが判明した。

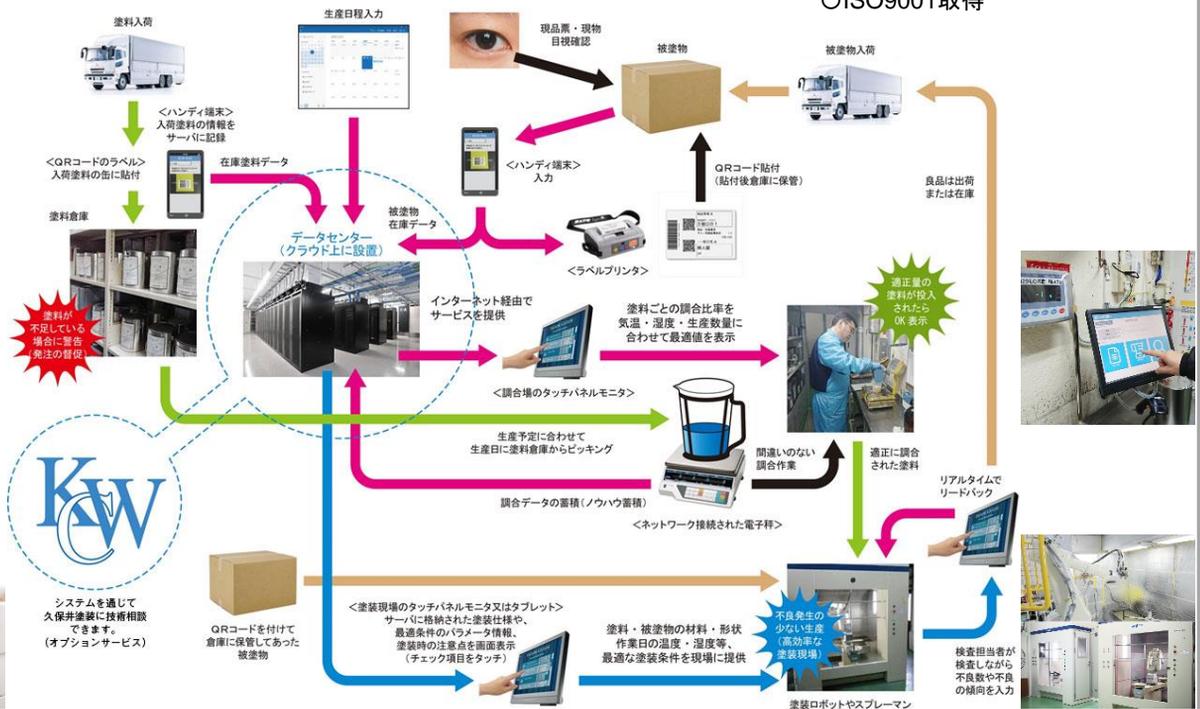
「経営革新計画」のテーマと概要

テーマ	IoTを活用したマザー工場システムによる自社知的財産の商品化
計画期間	平成29年6月～令和2年5月(3年計画) 【平成30年5月承認】



※本システムは経済産業省所管の「IT導入補助金2020」のITツールに認定

- 経済産業省「サポ・イン」採択企業(放熱塗装・抗菌塗装開発)
- 埼玉県環境SDGs取組宣言企業
- ISO9001取得



- 工業塗装業界に先駆者としてIoTシステムを開発・導入。
- IoTシステムを導入した顧客から高評価も得るとともに、工場見学希望者が増加。
- 社員全員でシステムを構築したことにより、社内コミュニケーションが活性化。

「経営革新計画」の実践

1 システム開発

- 現場の人間にとって使い勝手の良いシステムとするため、社長直轄のプロジェクトチームをつくり、各工程・部門から現場意見やノウハウを集約した。
- プログラミング側に対し、プログラミングのやりやすさや常識を優先せず、塗装現場ファーストでシステムを製作してもらうよう依頼した。
- 上記の過程で、「わからないから専門家に任せよう」という姿勢を捨て、現場ファーストの価値観を共有できるシステムエンジニア、プログラマ、開発会社を探し、根気よく意識合わせを行った。

2 販売促進

- 開発したシステムを自社で1年間運用して問題をつぶし込み、β版として顧客工場へ試験導入した。
- 顧客がより使いやすいシステムとするために逐次アップデートをしており、今後製品版として普及させていく。また、メンテナンスもできる販売代理店の開拓も同時に進めていく。
- システムを導入した自社の工場を視察した顧客に対し、システムの良さだけでなく、自社の独自性・技術力を積極的にPRしている。



電子天秤操作画面



作業風景

「経営革新計画」の成果

- システムの利用者がより使いやすいものにするために、部門を問わず、全社的に意見を集約した結果、社員全員で作り上げたシステムとなり、社内の連帯感が強まり、意見交換が闊達となった。
- 塗装ラインの管理をシステム化したことにより、顧客からの評価が高まり、工場見学の希望も増加した。また、日刊工業新聞、日本経済新聞、塗料報知新聞、コーティングメディアの各紙に記事掲載され、飯能ケーブルテレビの取材を受けるに至った。
- 「下請け塗装屋では生き残れない、中小企業でも自ら製品・技術を独自に研究・開発していかなければいけない。」という社長の思いを若手従業員にまで浸透させることができた。

成功の秘訣

- 経済産業省の「サポート・インダストリー」に採択された経験が大きく、日頃から問題意識を持つ土台ができており、また、コミュニケーションも良好であったことから、本計画の必要性・優位性を周知しやすく、全社的な取組とすることができた。
- システム構築の観点から設計すると現場が使いにくいものになるため、あくまで現場が現在行っている業務をデジタルに置き換えるという点を重視し、システム開発側の事情はできる限り排除した。
- プログラマ達と対話するために、発注者として身につけなければいけないコンピュータやシステム開発の基礎知識について、時間を惜しまずしっかりと習得することに努めた。

「経営革新計画」に取り組んでよかったこと

- 知事をはじめ、公的な立場におられる方々に弊社を知っていただくきっかけになった。
- 県内の民間事業者の方々にも、弊社を知っていただける接点になる。
- 経済産業省の「ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金」と合わせて取り組み、評価に加点されることになった。

これから「経営革新計画」に取り組む皆様へメッセージ

経営革新計画を策定するとき、自社の未来を見据えたポジティブな計画を立てることになりますが、ポジティブ目線で立てた計画を県知事に認定していただくことを通じて宣言することは、立てた計画をできる限り達成しようとする動機にもなります。

また、革新という言葉が示す通り、単に既存の業務の拡大というだけでなく、発展的な未来を計画することにもつながりますので、企業の新陳代謝を促す効果も期待できます。



窪井社長



作業風景